

調査等事項報告（団体名：議会だより編集委員会）

| | |
|------|---|
| 視察先 | 埼玉県大里郡寄居町議会（議会広報広聴特別委員会） |
| 視察日時 | 平成30年8月2日（木）10時～11時45分まで |
| 視察項目 | 議会報の編集について |
| 視察者 | 秋葉新一、川田律子、石澤祐一、高橋菜穂子、菊池大二郎、矢萩浩次、犬飼 司 |
| 内 容 | <p>1 視察先の概要について</p> <p>寄居町は人口約3万3千人、約1万4千世帯であり、水の三冠王（名水百選、水の郷百選、水源の森百選）の認定を受けている自治体。村山市よりも人口・世帯ともに多い町ではあるが、議会報をはじめとした広報活動に議会全体として大変注力されている。実際に同町議会報は平成29年度全国町村議会広報コンクールにて最優秀賞を獲得。こうした編集活動や広報活動について視察研修を実施。</p> <p>2 編集組織について</p> <p>同町議会の議員定数は16名。村山市議会だより編集委員会に相当する「議会広報広聴特別委員会」が8名で構成されている。（2つの常任委員会から4名ずつ選出。）なお、同特別委員会は議会基本条例の制定、議会委員会条例の改正に伴い、平成28年9月29日に設置され、議会報の編集・発行のみならず、議会活動全般にわたる広報・広聴活動の推進を目的とするものである。</p> <p>3 議会報の編集活動について（村山市との比較）</p> <p>(1) 活動理念</p> <p>「読んでもらえなければ作らないのと同じ」という思いで、斜め読みでもある程度理解出来るような分かりやすい議会報を制作。また、基本的な活動は委員が主体であるが、議会報のテーマになる大きな企画については、全議員が協力して取材活動に当たる。これにより、日々の議員活動・議会活動を通じて、常に取材意識を持つ機運が醸成されている。</p> <p>(2) 具体的な取り組み</p> <p>①読み手側に立った広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審議結果だけでなく審議経過も掲載。 ・斜め読みを可能とするため、今読んでいるページに次ページの紹介文を掲載。 ・更に深く知りたい方のためにQRコードを掲載。 ・町民の関心の高い議案等を優先的な切り口で編集。 <p>②見出し、写真を見れば分かる広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見出しは出来るだけ大きく、記事の内容が分かりやすく、簡潔でインパクトのある表現に。 |

・表紙は、年間のテーマに沿い、特集記事との連動性も考慮して選出。

③町民参加の広報

- ・親しまれる紙面のために、町民の声を積極的に掲載する一方で、議会の視点もあわせて掲載し、一方通行にならないよう努力。
- ・町民とのコラボレーションを意識し、なるべく初めて登場する方を優先的に写真掲載。現に平成30年8月1日号では、表紙を含めて50名以上の町民の個別写真が掲載(村山市では、表紙と最終ページの「市民の声」特集を合わせても個別写真は数枚程度に過ぎない)。
- ・インタビュー記事「VOICE」や特集記事を掲載し、町民が登場する紙面づくりに努力。議会が聴いた町民の声をカウントして「KOE METER」という形で数値化及び掲載しており、前述最新号発行時点で300名に及ぶ(村山市では、前述の「市民の声」で市民一人の声を掲載するに過ぎない)。

(3) 編集予算

同町議会報の平成30年度の当初予算は約400万(村山市は約90万)。この差は、編集・発行過程に発行業者が随時参加する点が理由に挙げられる。業者は全国の会議報の発行を手掛ける「会議録センター」という会社であり、豊富な情報力と多様なニーズへの対応力がある。専門性のある業者が編集会議に参加することでの確かなアドバイスの提供が可能となり、プロジェクターを使用してリアルタイムで委員相互の意見を反映、修正を加えている。(この点、村山市では、基本的には委員が編集したとおり業者が発行委託する形態)。

4 総括

村山市議会との決定的且つ本質的な違いは、「如何に議会活動を充実させるか」ということのように思えた。つまり、本市は編集委員会という形で議会報の編集のみを行うに対し、同町では広報のみならず、「広聴」という意識を議員全体で共有する特別委員会を設置し、議会基本条例に沿った「聴いて、即動く」という理念を実現する手段として、議会報を位置づけている。そのため、全議員が常に取材意識を持ちながら町民の意見を拾い上げ、議会報を通じてそれらに対する議会の考え方を示すという枠組みを構築している。

読んでもらえるために、写真をどれにするか、レイアウトをどうするかの前に、議会としてどうあるべきかという根本的な資質を問われているように痛感した。

なお、余談ではあるが、寄居町議会は本市議会とは異なり、会派主義を採用していない。町づくりには党派は関係ない、という認識のもと、議会全体として執行部に予算等の要望を行い、そうした要望が現にどう町政に反映されたのかも議会報に掲載する等、議会活動と広報活動が連動していることも素晴らしいと感じた。